



医師が詳しく解説 ドクターズ・トーク

森之宮病院 神経リハ

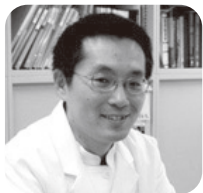
ビリテーション研究部

の活動について

**充実した研究環境のもと
リハビリ治療の創出に取り組んでいます**

森之宮病院では、様々な病気により障がいを持つておられる方へのリハビリテーション治療をおこなっています。また、医師、療法士や看護師らによるリハビリテーションに関わる研究活動も精力的におこなっています。このような活動の一環として、神経リハビリテーション研究部では、京都大学名誉教授 久保田競先生を顧問として招き、宮井一郎院長代理の指導のもと、最新の研究装置を駆使して、機能回復の仕組みの解明や新しいリハビリテーションの手法の開発を目指した研究をおこなっています。

研究に使用する主な装置としては、近赤外線を用いて脳活動を計測する「機能的光トポグラフィ」があります。その他にも、一般に病院でおこなわれている検査と同じような、小さな金

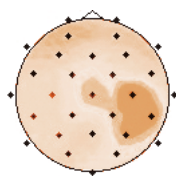
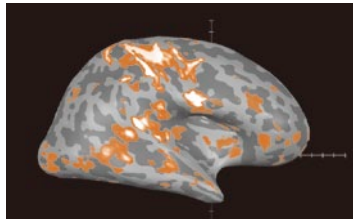


服部 憲明 医師

大阪大学大学院医学系研究科卒業。
ボバース記念病院、米国国立衛生研究所勤務を経て、
平成19年3月から森之宮病院で勤務。
現在は森之宮病院神経リハビリテーション研究部部長

●図1

神経リハビリテーション研究部では、薬や放射線などを用いず、安全に脳活動を計測しています。図は、左から順に、機能的光トポグラフィ、機能的MRI、脳波計により計測した手足の運動に関連した脳領域を表示しています。



属の血を頭の表面に置いて、脳が活動している時の微細な電氣的な活動を記録する「脳波計」や、磁石の性質を使って、細かい脳の形や神経の活動を調べる「磁気共鳴画像(MRI)」を用いて脳活動を計測しています(図一)。いずれも安全で、注射や内服を必要とせず、痛みなどを伴う計測ではありません。

最近では、これらを用いて、自分自身の脳活動をリアルタイムに観察しながらコントロールする「ニューロフィードバック」という手法の臨床応用を行っています(写真1)。

●写真2

『脳から見たリハビリ治療』
機能回復のメカニズムについての神経科学の成果と新しいリハビリ治療法を紹介しています。



●写真1

「ニューロフィードバック」
コンピュータの画面に脳の活動をリアルタイムに表示し、これを自分でコントロールすることで脳の機能の向上を図ります。



厚生労働省や文部科学省からの公的な補助を受けた研究や、国内外の大学、研究機関との共同研究も多く、それらについて、国内外の学会や学術誌で発表してきました。また、リハビリテーションに関わる神経科学の成果について、私たちの研究を交えて、『脳から見たリハビリ治療(講談社ブルーバックス)』などで紹介しています(写真2)。

私たちは、これからも、患者さんの役に立つ新しいリハビリテーションの創出を目指して、研究を進めていきたいと考えています。

トイレでの介助

トイレで楽に排泄(はいせつ)が行えるように、便座への乗り移りやズボンの上げ下ろし動作の介助方法を紹介します。

大切な生活動作を楽で安全に行うために

排泄は、その行為に人の尊厳が伴うため、「自分で行いたい」家族も「自分でできるように」なつて欲しい」と願う生活動作です。また、トイレまでの移動や便座への乗り移り、ズボン等の上げ下ろし、局所の清拭など工程数が多いこと、ダイナミックな動きが求められることが特徴です。

自立や介助量軽減に向けたポイントには、便座への乗り移りができること、つかまり立ちができること、入口から便座まで数歩歩けることが上げられます。

便座への乗り移りが難しい場合は、ベッド付近で使用するポータブルトイレや、ベッド上で使用する尿器などがあります。

今回は、①便座への乗り移り②ズボンや下着の上げ下ろし動作の介助方法ををご紹介します。

便座への乗り移り

① 殿部や体からの介助(写真1)

この方法は、立ち上がる際に膝折れする人が対象になります。まず、患者さんのまひ側膝に介助者の両膝をあて、立ち上がる際に足で踏ん張りやすくします。また、患者さんには写真1のように介助者の肩に持たれ、姿勢を安定させ、介助者の肩や手すりを持つてもらいます。介助者は体を支え、前方へ誘導し、両足に体重をかけて立ち上りを助けます。立ち上がる際、殿部がついてきにくい人は、殿部から支えて立ち上がりましょう。そのまゝ、まひ側の膝と殿部を助けながら方向転換し便座へ移ります。

② 手・腕からの介助(写真2)

手すりがあれば1人で立ち上げれる、または膝折れしない人が対象になる介助方法です。

写真2のように、一方の手で患者さんのまひ側手を握り、もう一方の手で肘のやや上を支えます。このように介助することによって、まひ側足で踏ん張りやすくなり、両足でのスムーズな立ち上がりにつながります。

ズボンや下着の上げ下ろし

ズボンや下着の上げ下ろしでは、動作中、安全に立つておけることがポイントとなります。

① 自身で行う方法(写真3)

介助者がまひ側の膝や体を支え、立位姿勢を安定させることで、ご自身でズボンの操作が可能となります。

② 介助者が行う方法(写真4)

立位が不安定となりやすく、自身でズボン操作を行うことが難しい人が対象となります。患者さんは手すりを持ち、介助者がまひ側腕とまひ側膝を支え、両足で立つ姿勢を保った状態で介助者がズボンの上げ下ろしを行います。

③ ベッド上で行う方法(写真5)

写真のように両膝を立て、殿部を持ち上げた状態でズボンを上げ下ろします。その際、まひ側下肢で踏ん張りやすいように膝から足部の方向に圧迫を加えます。殿部を持ち上げにくい人は、両膝を左右に倒しながらズボンを左右交互に上げ下ろします。まひ側足が滑ってしまう場合は足の下に滑り止めマットを敷いて行ってみましょう。

トイレ動作は頻回に行う動作です。そのため、楽に安全に行える方法を療法師とともに見つけていきましょう。
(森之宮病院リハビリテーション部作業療法科主任 本山絵美)

(写真1)

殿部や体からの介助



(写真2)

手・腕からの介助



(写真3)

自身で行う方法



(写真4)

介助者が行う方法



(写真5)

ベッド上で行う方法



※左半身まひの方を例にしています。

療養型病院について

病院の機能の種類には、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟があります。

一般病棟は急性期に必要な入院治療を行う病棟で、病状が安定すれば退院しなければならぬため長期の入院はできません。そして、回復期リハビリテーション病棟はリハビリを集中して行う病棟で、制度上、受け入れの時期や入院期間に制限があります。

一般病棟や回復期リハビリテーション病棟から病状が安定した患者さんを受け入れるのが療養病棟です。継続して医療行為が必要で一般病棟や回復期リハビリテーション病棟から直接自宅復帰できず、施設にも入所できない患者さんが入院します。

療養病棟には、医療型療養病床と介護型療養病床があり、医療型は医療保険が適用され、介護型は介護保険が適用されます。療養病棟は終身入院できるというイメージを持たれがちですが、入院期間は原則3ヶ月程度といわれることが多いです。もちろん、状態により期間は変わってきます。

何を優先して病院を選ぶかはその方によって異なると思います。入院費、アクセスのしやすさ、療養環境、リハビリの回数など、病院を選ぶ際の判断基準は様々ですが、長期の入院となれば費用の問題も重要でしょう。

医療型の場合、状態により居住費がかかったり、医療費以外にリース代が必要となったりもします。入院前には衣服やオムツなどを持ち込めるかどうか確認しておくほうがよいかもしれません。

また、介護型の場合、要介護度により入院費が変わります。さらに治療に関しては、急性期の治療を目的としていないため、患者さんが急変された際にどの程度の対応をしてもらえるかの確認も大切です。

療養病棟を探すことになった際には、入院中の病院の医療ソーシャルワーカーにご相談下さい。森之宮病院・ボバース記念病院の医療相談室でもご相談を頂きましたら、ご要望を伺いながら病院を探すお手伝いをさせていただきます。

（ボバース記念病院診療部医療相談室 鷺山恵美）

 知っておきたい
薬のQ&A

薬剤師が
皆様からの
薬についての不安や
疑問にお答えします。

Q 薬局で『おくすり手帳』をもらいました。 どう使えば良いの？

A 『おくすり手帳』とは、自分か飲んでる薬の名前や量、飲み方、使用法などの記録（薬歴）を残すための手帳です。

この記録があるとその内容から、医師、歯科医師や薬剤師は、

「どのような薬をどのぐらいの期間使用しているのか」が判断でき、薬局では「薬の飲み合わせに問題はないか」「同じ薬が重複して処方されていないか」などを確認することができま

す。

④アレルギー歴、副作用歴や既往歴も記録して下さい。

⑤あなたがもらった薬の記録になりますので大切に保管して下さい。

複数の医療機関にかかった場合は、1冊にまとめましょう。継続的な記録をすることによって、いつ頃から・どんな季節に・どのような薬を・どのぐらいの期間飲んでいるか分かりやすくなります。

● 利用方法

①医療機関にかかった場合は毎回、必ず医師、歯科医師や薬剤師に提出して下さい。

②薬局で市販の薬を買った場合にも記録して下さい。

③薬について分からないことや困ったこと等があるときには、記録しておきましょう。

また、普段から『おくすり手帳』を持ち歩くようにしていると、出先での急病時や地震等の災害時にも自分の飲んでる薬の内容を正しく伝えることができます。適切な処方を受けられるので大変便利です。ぜひ、ご活用下さい。

（森之宮病院診療技術部薬剤科 加藤啓子）

BOX

第271回健康教室 開催報告

「血管の病気のお話」 「家庭での食中毒対策」

4月25日、大道クリニック2階会議室で第271回健康教室を開催しました。第1部は森之宮病院診療部循環器内科部長の川崎大三医師による講義「血管の病気のお話」。血管にまつわる主な病気の紹介後、森之宮病院心臓血管センターで行っている治療法について詳しく解説しました。第2部は、サラヤ株式会社食品衛生サポート部食品衛生インストラクターの西川裕希子氏の「家庭での食中毒対策」の講演で、食中毒を防ぐ原則や対策、手洗いの基本についてご紹介頂きました。お二方には講師を務め下さり、ありがとうございました。

(健康教室事務局／ボバース記念病院事務部庶務課 高木剛)

健康教室の開催予定

- 13時30分から、大道クリニック
2階会議室で開催します。
- 第274回 8月22日(木)
- 第275回 9月26日(木)

第24回健康教室 友の会親睦旅行

6月25日、健康教室友の会親睦旅行が実施されました。伊根湾の舟屋めぐりでは舟屋が建ち並ぶ伊根湾を約30分かけて遊覧船で周遊。湾を取り囲むようにして建つ舟屋群を海上から眺める景色は、陸地からではなかなか味わえない趣があります。また、波の音に耳を傾け、泳ぐ魚を身近に感じながら、群がるカモメやウミネコに船上から餌を与えるのも、伊根湾めぐりの醍醐味(だいごみ)の一つであり、皆さん楽しんでおられました。



昼食は宮津湾で捕れた新鮮な食材を使った特選料理を頂きました。温泉は美肌効果満点といわれる野趣あふれる天然温泉の掛け流し露天風呂。日本庭園内にあり、吹き抜ける潮風と木々の香りが爽やかさと心地よさを与えてくれて、日頃の疲れが取れるだけで

なく、心も癒されました。

今回の旅行も急病者やけが人もなく、無事に終了する事ができました。ご参加下さった皆様、ありがとうございました。

(健康教室事務局／ボバース記念病院事務部庶務課 高木剛)

在宅生活を一緒に 考えましょう

ヘルパーステーショングリーンライフでは、「安心できる在宅生活の提供」を理念とし、自宅での生活で困っていることや不安なことに對してヘルパーがお手伝いさせて頂いています。ご家族様と同居の場合でも、介護することに不安を感じているご家族様の不安を軽減する方法を一緒に考えます。

ご利用者様をはじめ、ご利用者様に関わる方々とも話し合い、それぞれに合ったお手伝いの方法を考え、住み慣れた地域でより長く自分らしく暮らして頂きたいと思っています。

自宅での生活に不安を感じておられましたら一度ご相談下さい。
(ヘルパーステーショングリーンライフ 新美広子)



大道会

社会医療法人大道会本部 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1 丁目 5-1 TEL 06(6962)9621 FAX 06(6963)2233

森之宮病院 〒536-0025 大阪市城東区森之宮 2 丁目 1-88 TEL 06(6969)0111 FAX 06(6969)8001

ボバース記念病院 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1 丁目 6-5 TEL 06(6962)3131 FAX 06(6962)8064

森之宮クリニック(P E T 画像診断センター) 〒537-0025 大阪市東成区中道 1 丁目 3-15 TEL 06(6981)9600 FAX 06(6981)3456

帝国ホテルクリニック(人間ドック) 〒530-0042 大阪市北区天満橋 1 丁目 8-50 帝国ホテル大阪 3 階 TEL 06(6881)4000 FAX 06(6881)4008

大道クリニック(人工透析) 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1 丁目 4-25 TEL 06(6961)5151 FAX 06(6961)5131

介護老人保健施設グリーンライフ 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 9 丁目 3-9 TEL 06(6965)0666 FAX 06(6965)0606

訪問看護ステーションおおみち 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1 丁目 2-17 第2 栄泉ビル 2F 202 号 TEL 06(6967)1123 FAX 06(6962)3328

訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央 1 丁目 16-6 TEL 06(6942)3737 FAX 06(6962)3328

訪問看護ステーション東成おおみち 〒537-0021 大阪市東成区東中本 2 丁目 9-26 ジョイフル遠山 1F TEL 06(6977)8680 FAX 06(6977)6835

ケアプランセンター城東おおみち 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1 丁目 2-17 第2 栄泉ビル 2F 201 号 TEL 06(6964)5285 FAX 06(6962)3346

ケアプランセンター東成おおみち 〒537-0021 大阪市東成区東中本 2 丁目 9-26 ジョイフル遠山 1F TEL 06(4259)5311 FAX 06(6977)6835

レンタルケアおおみち 〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1 丁目 2-17 第2 栄泉ビル 2F 201 号 TEL 06(6967)6250 FAX 06(6962)3346

特別養護老人ホームサンローズオオサカ 〒537-0003 大阪市東成区神路 1 丁目 10-3 TEL 06(6974)7388 FAX 06(6974)7391

東成山水学園(保育園) 〒537-0012 大阪市東成区大今里 2 丁目 19-18 TEL 06(6974)7377 FAX 06(6976)9777